

2021 7/27

No.2143

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



高校野球の神奈川大会が10日開幕。感染防止で開会式は中止され、サーティーフォー保土ヶ谷球場での第1試合前に選手宣誓が行われた。



視点点描	3
一步踏み出す「決断」	
講演録	4
コロナ禍で迎える東京五輪・パラリンピック 共同通信社オリンピック・パラリンピック室長 小林 伸輔	
デモクラシーの現場から	8
コロナ逆風、衆院選へ漂う暗雲	
五輪	10
日本、史上最多メダルは確実 コロナ禍の東京五輪開幕	
くらし2021	14
がん「悪液質」の治療薬登場	
アジアの風	16
生後59日の息子と国会登院	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



一歩踏み出す「決断」

グローバル経済の時代に、神奈川県という地域に根差した新聞の経済部が果たすべき役割は何か。一つは、地元の頑張る中小企業を、紙面を通じて応援することだと考えている。「挑む 中小企業」というタイトルで、小さくともキラリと光る企業を随時紹介している。

6月8日の経済面で紹介したのは、横浜市鶴見区の金属加工「中谷製作所」。従業員は8人。20年ほど前までは売り上げの9割が受注したプレス加工の仕事、いわゆる下請けだった。しかし今、売上高1億2千万円のうち、自社開発した製品が6割を占めるといふ。代表的な製品が、プレス加工をしながら同時にタップ(ねじ切り)加工もする「タッピングユニット」で、特許も取得した。2002年

のタッピングユニット販売開始から昨年まで、これら自社製品の売上高は「累計で10億円を超える」と、中谷孝芳社長は話す。

収益の柱となる自社製品の開発は、中小企業の経営者なら誰しも実現したい目標だろう。「よく『どうしたらオリジナル製品ができるのか』と聞かれる」という中谷社長の答えを紙面で詳しく書けなかったもので、ここで紹介したい。

「(取引先に) いままで技術的なことで『できない』と言ったことがない」という中谷社長。「ものがづくりのノウハウは豊富なので、製品のイメージができれば作れる」と思っている。『売れるもの』を探しているのではなく、『これって革新的だよな』というアイデアを作ってみようとやっている。正しいこと、やるべきものが決まっているから簡単」と語る。

とはいえ、「正しいこと」「やる

べきもの」を見つけるのが難しい。中谷社長は「興味だと思う」と一言。家族で買い物に行っても、陳列された商品ではなく、陳列棚の金具を見て「これ付けるの大変だな」とか「いくらで作れるかな」。そんなことばかり考えて「家族にも『何を見ているの』と言われる」と苦笑い。常にアンテナを張っておくことがポイントだ。

もう一つ、大事なのは「社長の決断」という。製品開発に成功の保証はないが、「失敗しても自分の責任。社長なので誰かに文句を言われるわけでもない」。経営者の一歩前に踏み出す「決断」も、自社製品には欠かせない。部品の一つということだ。

コロナ禍を乗り越える「社長の決断」、そのヒントになる会社を積極的に取り上げていくつもりだ。

(神奈川県経済部長

吉田 勝行)